

平成 28 年度 児童の学力向上を図るための調査について

4月19日に全国の6年生を対象として、7月7日には東京都の5年生を対象として、調査を実施しました。この調査は児童一人一人の学力の状況を把握し、指導方法を改善して児童の学力向上を図るためのものです。結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

28年度「全国学力・学習状況調査（6年生）」の結果 数値の単位：%

国語A・算数A……これまでの学習内容を理解し、しっかり身に付けているかどうかを見るもの。

国語B・算数B……これまで学習した内容を、他教科や実生活の中で活用できるかどうかを見るもの。

	関心・意欲・態度			(国)話す・聞く (算)数学的な考え方			(国)書く (算)数量・図形の 技能		
	立野小	東京都	全 国	立野小	東京都	全 国	立野小	東京都	全 国
国語A				86.5	81.6	79.2	84.5	77.2	72.8
国語B	64.2	55.3	54.7	67.1	52.7	51.1	63.5	55.2	53.4
算数A							89.5	83.5	82.5
算数B				50.8	42.8	40.9	64.2	58.8	53.3

	読む			(国)言語 (算)数量・図形の 知識・理解			全 体		
	立野小	東京都	全 国	立野小	東京都	全 国	立野小	東京都	全 国
国語A	81.1	79.9	78.5	77.0	71.2	71.1	79.2	73.8	72.9
国語B	78.4	70.7	69.3				68.4	59.8	57.8
算数A				83.4	77.6	75.4	85.3	79.4	77.6
算数B				84.5	72.6	69.5	58.0	49.8	47.2

国語Aは全国と比べて6.3%、国語Bは全国と比べて10.6%、上回っていることが読み取れます。特に「書く」ことについては、AB共に全国を10%以上、上回っています。

反対に、全国の正答率を下回った問題があります。それは、「書く」の出題中のローマ字の問題です。「あさって」をローマ字で表す問題では、全国の正答率が41.8%のところ、本校では37.8%でした。ローマ字は3年生で学習しますが、その後、教科書で学習する機会はありません。そこで、ローマ字の学習が定着するよう、4年生以上の学年においても、学習する機会を設けていくようにします。

算数Aは全国と比べて7.7%、算数Bは全国と比べて10.8%、上回っていることが読み取れます。特に「数量・図形の知識・理解」については、算数Bは15.0%、上回っています。

反対に、「数学的な考え方」の項目の中に正答率が12.2%と低い問題があります。それは、理由を説明する問題です。問題は、3つの条件に沿って書くことが求められています。そこで、普通の授業で理由を説明する際にも、条件に沿って書くことができるような機会を設けていくようにします。

A 教科の内容												
教科	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む		Aの合計正答率	
	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都
国語	92.6	90.6	86.9	82.3	49.2	54.0	87.8	78.0	80.3	72.9	82.4	76.5
社会	93.5	91.3	62.3	58.2	84.5	81.0	77.7	69.9			77.0	72.9
算数	83.1	82.6	59.7	54.8	71.3	64.9	79.2	72.6			73.5	67.7
理科	96.8	94.8	79.0	74.2	51.2	48.4	61.1	56.4			67.5	63.5

B 読み解く力に関する内容								
教科	取り出す力		読み取る力		解決する力		Bの合計正答率	
	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都	立野小	東京都
国語	98.4	78.2	83.6	74.1	34.4	33.1	38.3	32.9
社会	80.6	80.0	67.7	65.5	79.0	69.7	57.0	47.4
算数	74.2	70.6	36.3	25.0	37.1	33.3	55.0	45.3
理科	80.6	66.1	65.3	60.5	54.0	51.1	64.9	57.1

AとBの合計正答率		
	立野小	東京都
国語	72.1	61.8
社会	75.8	71.7
算数	49.2	42.9
理科	66.7	59.2

各教科の学習内容について、4教科とも都の平均を上回る結果がでました。子供たちは学習に意欲的に真面目に日々取り組んでいます。学習に向かう姿勢が、学力の定着の基礎であり、大切にしていきたいところです。また、学校では学習のはじめに、その時間の「めあて」を確認し、めあてを意識しながら子供たち自らが学んでいけるよう授業を展開しています。その時間の学びをしっかりと身に付け、今後も学習内容の定着を図って参ります。

今回の学力テストでは、国語の技能「書く」の観点で、都の平均より4.8パーセント下回る結果となりました。テストの内容は、メダカの観察記録を事実と照らし合わせながら正確に伝える表現の仕方と文末の書き方を正しく直すものでした。必要な情報を選び、目的に応じた表現をしていくことや「なぜ」「だから」「どんなことですか」「～ということ」というように、文末表現を意識して文章を書く指導を繰り返し行い、書く力の課題改善を行っていきます。

B読み解く力に関する内容については、「取り出す力」で、国語で20.2パーセント、理科で14.5パーセントと都の平均を大きく上回る結果となりました。文中から解答に必要な情報を正しく見つけることができている。これらに比べ、社会の「取り出す力」は低い傾向にあります。文だけでなく、グラフや表などから情報を読み取る力も今後意識して指導していきます。

平成28年度 新体力テストについて

東京都児童 体力・運動能力、生活運動習慣調査結果を受けて

考察

今年度の新体力テストの結果について、2年生から6年生の記録を学年進行で見ると、全体で40項目のうち男子では21の項目で、女子では27の項目で向上が見られました。男子では5割以上、女子では6割以上の項目で記録が向上しています。

全国平均に対しては、男女ともに6学年で48項目中27項目という、半分以上の項目で平均記録を上回っています。種目別の傾向を見ると、男子では「上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・20mシャトルラン」女子では、「握力・上体起こし・長座体前屈・20mシャトルラン」において、多くの学年で全国平均を上回る結果となりました。この結果に、男子では敏捷性、女子では筋力に加え、男女ともに動きを持続する能力や体の柔らかさが表れています。

一方、「50m走・ソフトボール投げ」では男女ともに全国平均を下回る学年が多い結果となり、全力で走る力や投げる力の向上が立野小学校全体の課題と言えます。ただし、ソフトボール投げについては、全国平均を下回る結果となっていますが、学年進行で記録を比較して見ると、ほとんどの学年に記録の向上が見られ、成果はあがりつつあると考えられます。

学校としての取り組み

一人一人の運動経験の差が、体力・運動能力の差につながっていることも考えられるので、本校ではたくさん運動に触れる機会を設けています。

体育では、器械運動やボール運動などの授業を中心に、どの子も体を動かす楽しさを味わいながら、運動をする意欲が高まるよう、授業改善に取り組んでいます。また20分休みには、定期的に「タテノンピック」を開催し、綱引きや上方に向かってのボール投げ等の、子供たちが普段あまり遊ぶことのできない遊びを実施するなど、体育的活動を始めました。

そして、従来の持久走大会やなわとび月間などの体育的行事を充実させるべく、RUNRUNタイムやピョンピョンタイムなど、全校で体を動かす取り組みも継続して行っています。

本校では、今後も児童の体力向上を図るための取組を積極的に行い、学力と体力ともに全国平均を上回ることができるよう指導を行っていきます。

ご家庭へのお願い

学校での遊びも含め、東京都教育委員会では基礎体力向上のため「1日60分の運動」が目安となっています。体育の授業がない日には、この規準を満たさない子供たちが出てきてしまうことが考えられます。ぜひご家庭でも、休日や放課後の外遊びを子供たちに呼びかけて下さい。また、体力・運動能力を高めるためには、心や体も健康に保つことが大切です。「ご飯は3食しっかり食べること、睡眠時間をしっかり確保すること」など、基本的な生活習慣を確認し、元気に運動に取り組めるようご家庭でもご協力をお願いいたします。